

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								西原 伸行			
理学療法検査・測定法実習Ⅱ				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
資料作成、実技実技が中心となる。実技においては積極的に行うこと。受け身になるとみにつかない。											
〔到達目標〕 3年・4年における臨床実習が円滑に行えるように準備する。 臨床実習に向けて基本的な検査測定技術の正確性及び医術の再獲得 評価実習に向けての評価資料の測定											
〔使用教材、参考文献等〕 生活環境学テキスト(南江堂)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	関節可動域テスト 体幹/手関節/指の再確認					1年2年の時に不十分であった検査を復習する					
2	関節可動域テスト上肢下肢					1年2年の時に不十分であった検査を復習する					
3	徒手筋力テスト 体幹/手関節/指の再確認					1年2年の時に不十分であった検査を復習する					
4	徒手筋力テスト上肢下肢					1年2年の時に不十分であった検査を復習する					
5	バランス検査の再確認					場乱視検査の再確認 静的/動的検査、FBSを復習する					
6	運動器疾患の検査(頸部疾患/胸部疾患/腰部疾患/仙腸疾患)					整形外科特殊検査の再確認を実施する。					
7	運動器疾患の検査(肩関節疾患/肘関節・手関節疾患/指疾患)					整形外科特殊検査の再確認を実施する。					
8	運動器疾患の検査(股関節/膝関節疾患/足疾患)					整形外科特殊検査の再確認を実施する。					
9	高次脳検査の理解と評価用紙作成					高次脳検査の意義を理解し、臨床実習用の評価用紙を作成し資料とする					
10	精神疾患の理解と評価用紙作成					精神疾患について理解し評価項目を再復習する					
11	協調性検査の再確認					協調性検査の意義を理解し、臨床実習用の評価用紙を作成し資料とする					
12	脳血管障害に対しての機能評価検の再確認					burnnstrom test 12段階式片麻痺機能テストを理解する。					
13	骨折・変形性関節症・サルコペニア 検査値の読み方					理学療法士に必要な疾患についての理解と検査値の数値を理解する					
14	パーキンソン・脳梗塞・ALSの検査値の読み方					理学療法士に必要な疾患についての理解と検査値の数値を理解する					
15	糖尿病・慢性腎臓病・間質性肺炎の検査値の読み方					理学療法士に必要な疾患についての理解と検査値の数値を理解する					
〔評価について〕 小テストは課題とする。毎回 期限までに提出すれば得点とし、未提出は0点 期末試験は実技 課題の点数と実技試験の点数を加算し評価					〔特記事項〕						

東京メディカル・スポーツ専門学校

【評価について】
1週間目に次週行うケースの基本的知識を宿題として提出してもらおう。
この提出をもとに評価を行う。
①どのような資料から調べたのか。
②内容
③わかりやすさ

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		渡辺 寛									
画像診断学		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
【授業の学習内容と心構え】											
リハビリテーション病院の院長である医師による理学療法士がリハビリテーションを行なうために必要な画像の評価、治療機器について学習する。特に理学療法士は医師の指示のもとによる医療行為が法律上定められており医師と同じ視点で画像診断も診られるようになってほしい。											
【到達目標】											
・疾患に即した画像の評価について診られるようになる ・画像診断で医師からどのような指示が出て理解できるようになる											
【使用教材、参考文献等】 ・授業時配布資料					【準備学習・時間外学習】 普段から時事問題に関心を持ちながら理学療法士としての役割の広さを考えながら参加すること						
回	【授業概要】				到達目標(できるようになること)						
1	リハビリテーションに必要な評価機器について				それぞれの検査法の特徴を理解できる						
2	検体検査・生理検査				画像検査以外の検査方法について理解できる						
3	画像検査総論① 電離放射線 X線写真など				画像評価機器を使った画像診断が診られるようになる						
4	画像検査総論② 電離放射線 CTなど				画像評価機器を使った画像診断が診られるようになる						
5	画像診断総論③ MRIなど				画像診断による画像診断できるようになる						
6	画像診断 頭部外傷など				画像診断による頭部外傷を診られるようになる						
7	画像診断 頭部外傷など				画像診断による頭部外傷を診られるようになる						
8	画像診断 頸部疾患				画像診断による頸部疾患を診られるようになる						
9	画像診断 くも膜下出血				画像診断によるくも膜下出血を診られるようになる						
10	画像診断 脳内出血				画像診断による脳内出血を診られるようになる						
11	画像診断 脳梗塞				画像診断による脳梗塞を診られるようになる						
12	画像診断 脳腫瘍				画像診断による脳腫瘍を診られるようになる						
13	画像診断 胸部				画像診断による胸部疾患が診られるようになる						
14	画像診断 腹部・腰部				画像診断による腹部・腰部疾患がを診られるようになる						
15	期末テスト				まとめ						
【評価について】 評価は試験で行う。 試験は小テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					【特記事項】 毎授業において重要事項についてはメモをとること。 配布資料による授業を行なう。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						玻名城 亮			
疾患別理学療法実習Ⅱ (循環・内部障害)		必修	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ICUやHCUでの急性期リハビリテーションの臨床経験がある講師による授業である。本教科では、臨床現場で関わる機会が多い循環器系、内部疾患系に関連する領域の基礎知識を広く理解し、それぞれの疾患に対応した理学療法の評価と治療法の基本を身につけることを目標とする。									
〔到達目標〕									
循環、腎臓、癌に対する解剖学、生理学的な基本知識を整理し、特徴と病態を理解したうえで、理学療法評価と治療アプローチを実施することができる。 各疾患の運動療法に対する注意点や、リスク管理についての理解を深める。									
〔使用教材、参考文献等〕 内部障害理学療法テキスト(南江堂)					〔準備学習・時間外学習〕 授業で学ぶ範囲が多い科目のため、予め教科書を読み、予習しておくこと。また、授業後は復習をし、重要な部分を確認することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	・総論：内部障害の理解 ・循環器障害：運動と循環				・内部障害の範囲、特徴について理解する。 ・循環器系の役割、運動制限のメカニズムを理解する。				
2	・循環器障害：循環器系の一般的治療/心ポンプ機能低下、心筋虚血、不整脈				・循環器疾患の概略、治療方法について理解する。心ポンプ機能低下、心筋虚血、不整脈の病態を理解する。				
3	・循環器障害：運動耐容能/循環器障害のQOLとADL				・運動耐容能の評価法、低下について理解する。 ・心疾患患者のADLとQOL障害、制限因子を理解する。				
4	・小テスト実施(10点) ・循環器障害：心筋梗塞急性期の理学療法				・心筋梗塞急性期の病態や治療、心血管理学療法の目的、理学療法介入について理解する。				
5	・循環器障害：心筋梗塞回復期、維持期の理学療法				・回復期、維持期の病態に応じた適切な運動プログラムの作成、実施、運動の継続を支援することができる。				
6	・小テスト実施(10点) ・循環器障害：心不全の理学療法				・心不全の障害像と重症度、理学療法評価、急性期、慢性期の理学療法が理解できる。				
7	・循環器障害：その他の循環器疾患 ・症例検討(循環器疾患)				・合併症として各循環器疾患リスク管理の考え方を学ぶ。 大動脈疾患の障害像、理学療法評価、プログラムを学ぶ。				
8	・小テスト実施(10点) ・末梢循環障害：動脈系末梢循環障害の理解と理学療法				・動脈末梢神経障害の代表的な疾患の概略を理解する。 一般的な内科・外科的治療法と理学療法を理解する。				
9	・末梢循環障害：静脈・リンパ系循環障害の理解と理学療法 ・腎機能障害：腎機能障害の理学療法				・DVT、静脈瘤、リンパ浮腫の病態について理解する。 ・腎疾患における運動機能低下、障害特徴を理解する。				
10	・小テスト実施(10点) ・代謝障害：運動と代謝				・運動時の代謝、代謝障害、合併症について理解する。				
11	・代謝障害：糖尿病の一般的治療/糖尿病の障害理解				・糖尿病の病態、検査、治療について理解する。 ・糖尿病の合併症、臨床症状、リスク管理を理解する。				
12	・代謝障害：糖尿病の理学療法(軽症例/重症糖尿病合併例) ・症例検討(腎機能障害を合併した重症糖尿病)				・運動療法プログラムの立案、患者指導が実践できる。 ・患者の障害像、合併症に応じた理学療法を理解する。				
13	・小テスト実施(10点) ・患者教育：患者教育と行動変容へのアプローチ				・応用行動分析学に基づいた行動の原理を理解する。 ・患者教育と行動変容のための介入を理解する。				
14	・がん：がんの理学療法(疾患の概要/リハビリテーション) ・グループワーク				・がんの特徴と原因、分類、各検査、治療と理学療法の対象障害、緩和ケアについて理解する。				
15	期末試験(50点)								
〔評価について〕 期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					〔特記事項〕 講義では、症例検討やグループワークも必要に応じて行っていく。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						内堀 昭宜			
理学療法検査・測定法実習Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
・理学療法を実施するにあたり対象者の状態を把握するための検査・測定の進めかたを学ぶ ・習得した検査・測定法を対象者に応じて、有効かつ効果的に選択できる思考力を学ぶ									
〔到達目標〕									
・症例情報を通して、必要な検査・測定項目を列挙できる ・症例情報を通して、必要な検査・測定項目の優先順位を判断できる ・必要な検査・測定項目を効率的に実施できる									
〔使用教材、参考文献等〕 ●「理学療法評価学 改訂第6版」 (金原出版株式会社) ●適宜、プリント配布				〔準備学習・時間外学習〕 ＜準備＞事前課題への積極的な取り組み ＜時間外学習＞クラスメイトからの意見を基に、自分の考えを見直し、効果的な検査・測定が実施できるように振り返る					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	【臨床応用】総論：方法と実践の説明			検査・測定を進めていく際の注意点、優先順位の考え方を説明できる ⇒〔レポート課題〕					
2	【臨床応用①-1】運動器疾患 ～疾患の理解と機能障害～			運動器疾患の病態の理解をし、機能障害について説明できる					
3	【臨床応用①-2】運動器疾患 ～検査・測定項目の列挙とその目的～			運動器疾患の病態の理解をし、検査・測定項目を列挙することができる					
4	【臨床応用②-1】脳血管障害 ～疾患の理解と機能障害～			脳血管疾患の病態の理解をし、機能障害について説明できる					
5	【臨床応用②-2】脳血管障害 ～検査・測定項目の列挙とその目的～			脳血管障害の病態の理解をし、検査・測定項目を列挙することができる					
6	【臨床応用③-1】神経・筋疾患 ～疾患の理解と機能障害～			神経・筋疾患の病態の理解をし、機能障害について説明できる					
7	【臨床応用③-2】神経・筋疾患 ～検査・測定項目の列挙とその目的～			神経・筋疾患の病態の理解をし、検査・測定項目を列挙することができる					
8	【臨床応用】 ～グループワークの方法、発表と実践の説明～ 【臨床応用④-1】～グループワーク～			対象疾患の病態を理解し、検査・測定項目を列挙することができる ⇒〔レポート課題〕					
9	【臨床応用④-2】 ～検査・測定項目と目的の発表と実践～			他者の意見を聞き、自分の意見との相違を理解することができる					
10	【臨床応用⑤-1】 ～グループワーク～			対象疾患の病態を理解し、検査・測定項目を列挙することができる ⇒〔レポート課題〕					
11	【臨床応用⑤-2】 ～検査・測定項目と目的の発表と実践～			他者の意見を聞き、自分の意見との相違を理解することができる					
12	【臨床応用⑥-1】 ～グループワーク～			対象疾患の病態を理解し、検査・測定項目を列挙することができる ⇒〔レポート課題〕					
13	【臨床応用⑥-2】 ～検査・測定項目と目的の発表と実践～			他者の意見を聞き、自分の意見との相違を理解することができる					
14	【臨床応用】 グループ発表の振り返り 期末試験(レポート課題)の準備			グループワークを通して出てきた傾向を基に、一般的な検査・測定項目の列挙を認識することができる					
15	講義のまとめ 期末試験(レポート課題)の提出			臨床応用の講義を振り返り、自己の変化に気づくことができる					
〔評価について〕 ●発表と質疑応答における授業参加態度 ●確認試験(レポート課題) および ●期末試験(レポート課題)				〔特記事項〕 実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合がある 配布資料に重要項目は書き込むこと					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年 3	開講 区分	前期	担当教員 内堀 昭宣					
授業科目名 動作分析法演習					必修・ 選択	必修	授業 形態	実技 講義	時間数 (単位)	30 (2)
〔授業の学習内容と心構え〕 ・理学療法における検査・測定技術の一つである「動作分析」について、動作に影響を及ぼす原因を考える ・実際の動作分析を通して、動作の特徴を捉え、個々の運動要素に分解していく過程を学ぶ										
〔到達目標〕 ・動作にかかわる要因を理解し、異常動作が出現する原因を考察することができる ・各疾患の病態との関連性を考え、動作分析することができる										
〔使用教材、参考文献等〕 ●「動作分析 臨床活用講座」(MEDICAL VIEW) ●適宜、プリント配布						〔準備学習・時間外学習〕 ＜準備＞日頃から動作の特徴を捉える癖をつける ＜時間外学習＞講義内容と確認試験の振り返りを行い、知識の再確認をする				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	【イントロダクション】 ～臨床における動作分析、動作に関与する機能障害～				臨床における動作分析の重要性と影響を及ぼす機能障害について理解できる					
2	【イントロダクション】 ～動作分析に活用するバイオメカニクス～				バイオメカニクスの基本原理(＝力学)の基礎を理解できる					
3	【寝返り動作】～正常動作の理解～				寝返り動作の正常パターンを理解できる					
4	【寝返り動作】～異常動作の推論①～				寝返り動作に影響を与える要因を推論できる					
5	【寝返り動作】～異常動作の推論②～				寝返り動作に影響を与える要因を推論できる					
6	◆確認試験◆ 【起き上がり動作】～正常動作の理解～				起き上がり動作の正常パターンを理解できる					
7	◇返却と解説◇ 【起き上がり動作】～異常動作の推論①～				起き上がり動作に影響を与える要因を推論できる					
8	【起き上がり動作】～異常動作の推論②～				起き上がり動作に影響を与える要因を推論できる					
9	◆確認試験◆ 【起立・着座動作】～正常動作の理解～				起立・着座動作の正常パターンを理解できる					
10	◇返却と解説◇ 【起立・着座動作】～異常動作の推論①～				起立・着座動作に影響を与える要因を推論できる					
11	【起立・着座動作】～異常動作の推論②～				起立・着座動作に影響を与える要因を推論できる					
12	【歩行動作】～正常動作の理解～				歩行動作の正常パターンを理解できる					
13	【歩行動作】～異常動作の推論①～				歩行動作に影響を与える要因を推論できる					
14	◆◆期末試験◆◆(60分)				試験を通して自分の知識の深さを理解する					
15	◇返却と解説◇ 講義のまとめ、振り返り				講義を振り返り、理学療法における動作分析の過程を再考する					
〔評価について〕 ●確認試験 ●期末試験						〔特記事項〕 実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合がある 配布資料に重要項目は書き込むこと				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
疾患別理学療法学実習Ⅰ(脊損)									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 整形外科疾患に対するリハビリを専門として臨床現場に携わる専任教員による授業である。筋骨格系の運動器疾患に対する評価・治療のアプローチは臨床現場でも基本事項として必要なスキルであり、各疾患における評価の過程とアプローチまでの流れが実践できる事を目的とする。 〔到達目標〕 筋肉・骨格系の解剖学的理解が出来、各関節の特徴を把握することができる。 筋骨格系の運動器疾患の特徴と病態を理解したうえで理学療法的評価と治療のアプローチを実施する事ができる。 脊髄損傷に対する病態について理解できる 〔使用教材、参考文献等〕 筋骨格系のキネシオロジー 第2版 医歯薬出版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 改訂第2版 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ 〔準備学習・時間外学習〕 4・9・12回時は、小テストを行うこととする。そこで学習の復習が出来る様、ポイントを再学習してくることは望ましい。									
回	〔授業概要〕 到達目標(できるようになること)								
1	オリエンテーション 筋骨格系疾患に対する理学療法について 整形外科における理学療法の一連の流れを理解できる								
2	腰部疾患に対する理学療法について 腰部周辺の運動学・解剖学について理解できる 腰部疾患における病態について理解できる								
3	股関節疾患に対する理学療法について 関節可動域制限の基本概念について 股関節周辺の運動学・解剖学について理解できる 股関節疾患における病態について理解できる								
4	小テスト/膝疾患に対する理学療法について 膝関節周辺の運動学・解剖学について理解できる 膝疾患における病態について理解できる								
5	足部・足関節疾患に対する理学療法について 足関節・足部周辺の運動学・解剖学を理解できる 足関節・足部疾患における病態について理解できる								
6	肩疾患に対する理学療法について 肩関節周辺の運動学・解剖学について理解できる 肩疾患における病態について理解できる								
7	頸部疾患に対する理学療法について 頸部周辺の運動学・解剖学について理解できる 頸部疾患における病態について理解できる								
8	脊髄損傷の理学療法① ～疾患の病態について、症候・障害について、医学的検査について～ 脊髄損傷の病態や症候・障害、医学的検査について理解する								
9	小テスト/脊髄損傷の理学療法② ～理学療法評価について～ 脊髄損傷に対する理学療法士としての評価について理解する								
10	脊髄損傷の理学療法③ ～急性期の理学療法動作分析～ 急性期における脊髄損傷患者の動作分析のことを理解する								
11	脊髄損傷の理学療法④ ～回復期の動作分析～ 回復期における脊髄損傷患者の動作分析のことを理解する								
12	小テスト/脊髄損傷の理学療法⑤ ～回復期(基本動作:寝返り・起き上がり、座位バランス・プッシュアップ)～ 脊髄損傷におけるアプローチ方法を理解する								
13	脊髄損傷の理学療法⑥ ～回復期の理学療法(基本動作:移乗、車椅子操作、立位、歩行、ADLの練習)～ 脊髄損傷におけるアプローチ方法を理解する								
14	脊髄損傷の理学療法⑦ ～生活機能の向上と社会参加～ 脊髄損傷患者の生活機能の向上と社会参加について学ぶ								
15	期末テスト 解説 テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。								
〔評価について〕 評価は筆記試験、小テストで行う。 筆記試験は小テスト(10点×3=30点)、期末テスト(70点)の合計100点で判定し、評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 ハーフパンツやTシャツ等の自らが動きやすい服装であり、かつ触診がしやすい服装で出席のこと。 実際の臨床場面を想定しているため、服装や髪形に留意すること。 スケジュールは変更の場合あり。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								桜井 徹也			
				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
整形外科疾患に対するリハビリを専門として臨床現場に携わる専任教員による授業である。 近年予防に対するリハビリテーションが求められており、様々な分野での予防について理解し実践できることを目的とする。											
[到達目標]											
予防を必要とされている分野(介護予防や生活習慣病など)について理解する。 様々な分野において予防的アプローチを実践することができる。											
[使用教材、参考文献等] 健康運動士養成講習会テキスト						[準備学習・時間外学習] 2・4・6回時は、小テストを行うこととする。そこで学習の復習が出来る様、ポイントを再学習してくることは望ましい。					
回	[授業概要]					到達目標(できるようになること)					
1	介護予防と運動について①					高齢者の現状と介護予防の重要性について理解する 身体の高齢変化の特徴や転倒の予防について理解する					
2	小テスト/介護予防に関する体力測定法とその評価について					介護予防事業について理解する 実際の測定方法について理解する					
3	介護予防と運動について②					運動指導において配慮すべき点など 運動指導の実際について理解する					
4	小テスト/ロコモティブシンドロームについて					ロコモティブシンドロームについて理解する					
5	メタボリックシンドロームについて					メタボリックシンドロームについて理解し、 その予防方法について学ぶ					
6	小テスト/痛みの予防について					特に運動器疾患における痛みの仕組みや その予防方法について理解する					
7	健康作り運動の実際について					ウォームアップやクールダウン、ストレッチングなどの 実際について理解する					
8	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていない ところを把握し、理解度を深める。					
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
[評価について] 評価は筆記試験、小テストで行う。 筆記試験は小テスト(10点×3=30点)、期末テスト(70点)の合計100点で判定し、評価は学則規定に準ずる。						[特記事項] ハーフパンツやTシャツ等の自らが動きやすい服装であり、かつ触診がしやすい服装で出席のこと。 実際の臨床場面を想定しているため、服装や髪形に留意すること。 スケジュールは変更の場合あり。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		スポーツリハビリテーション論						桜井 徹也			
		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業 回数	8		
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士として現役スポーツ選手の治療～アスレティックリハビリテーションを実際にアプローチしている専任教員による授業である。アスリートが招きやすい疾病からの障害や外傷について専門的知識からの評価と治療アプローチを習得する授業を行う。											
〔到達目標〕											
・スポーツ(アスリートが抱える)障害・外傷の発生機序や病態を理解する ・医療的知見から評価・アプローチ方法を理解できる											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
・配布資料・スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版					2・4・6回時は、小テストを行うこととする。そこで学習の復習が出来る様、ポイントを再学習してくることは望ましい。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション スポーツ障害・外傷に対する理学療法について				スポーツ外傷/障害の概念や理学療法の 一連の流れを理解できる						
2	腰のスポーツ傷害について				スポーツにおける腰部の障害・外傷の種類を 理解し、評価方法を理解できる						
3	股関節・鼠径部のスポーツ傷害②				スポーツにおける股関節・鼠径部の障害・外傷の 種類を理解し、評価方法を理解できる						
4	膝のスポーツ傷害				スポーツにおける膝関節の障害・外傷の種類を 理解し、評価方法を理解できる						
5	下腿・足部のスポーツ傷害				スポーツにおける下腿・足部の障害・外傷の種類を 理解し、評価方法を理解できる						
6	肩のスポーツ傷害①				スポーツにおける肩関節の障害・外傷の種類を 理解し、評価方法を理解できる						
7	肘・手関節のスポーツ傷害				スポーツにおける肘・手関節の障害・外傷の種類を 理解し、評価方法を理解できる						
8	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていない ところを把握し、理解度を深める。						
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕 評価は筆記試験、小テストで行う。 筆記試験は小テスト(10点×3=30点)、期末テスト(70点)の合計100点で判定し、評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 ハーフパンツやTシャツ等の自らが動きやすい服装であり、かつ触診がしやすい服装で出席のこと。 実際の臨床場面を想定しているため、服装や髪形に留意すること。 スケジュールは変更の場合あり。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3年	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名								樋口 美幸		
				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
医療現場や地域領域で必要となる多職種連携について必要性を理解する。そのために必要な知識と対人スキルを講義および課題から考え身につける。										
〔到達目標〕										
多職種連携について学び、その必要性と必要な心構えと連携技術について説明できるようにする。 多職種連携をベースに臨床場面でのリハビリテーション像をイメージできる。										
〔使用教材、参考文献等〕										
講義使用スライド資料										
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 多職種連携とは 一視点・理由・連携の形・目標設定					多職種連携について概要を学ぶ。多職種連携の視点、なぜ必要なのか、その形態と連携の要点を理解する。				
2	連携のための信頼関係					連携のための信頼関係の構築について理解する。				
3	組織内の連携					病院、施設内の組織における連携のために必要な知識を学習し、そのあり方について考える。				
4	専門職としてのPT					専門職としてのPTのあり方の多様性について考える。関連知識を学ぶ。				
5	医療の質、スペシャリストvsジェネラリスト					専門職として提供すべき医療の質と、連携における専門性を活かす視点を学ぶ。				
6	多職種連携におけるセルフケア、ストレスマネジメント					ストレスが高いとされる医療職のセルフケアについて考える。ストレスとストレスと付き合う方法を学習する。				
7	関係構築のために知る性格気質					ストレスマネジメントを行うために自分のDNA気質を知ろう。ラインケア(他者理解)をする。				
8	筆記テスト(記述)					課題に対する記述筆記試験により、学習到達度を確認し効果判定を行う				
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
〔評価について〕 評価は記述による筆記試験で行う。 筆記試験は100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 講義やグループワークには能動的に参加をすること。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3年	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								樋口 美幸			
				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
障害者支援と理学療法											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
地域における障害者支援について、障害者総合支援法等の公的制度と支援サービスの概要を理解する。また障害者支援におけるリハビリテーション専門職としてのあり方について学習し自ら考え行動する力を身につける。											
〔到達目標〕											
障害者支援とリハビリテーションについて学び、その制度とサービス概要を説明できるようにする。学習した制度理解を元に地域臨床場面での障害者支援リハビリテーションをイメージできる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
講義内使用スライド資料											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション・総論					障害者支援について概要を学ぶ。					
2	ノーマライゼーションとバリアフリー・ユニバーサルデザイン					ノーマライゼーション・エンパワーメント・インクルージョンの概念を理解し生活環境としてのデザインを学ぶ。					
3	地域支援の対象者と地域共生社会					地域支援の対象者について学ぶ。また社会資源・地域包括ケアシステムを通じた地域共生社会のあり方を考える。					
4	障害者総合支援法の制度変遷と制度概要					障害者総合支援法の制度変遷と概要について学ぶ。					
5	障害者総合支援法各論(各種サービス)					総合支援法における各種サービスについて理解を深める。					
6	障害者総合支援法各論(制度利用と負担、各種支援制度)					制度の利用の流れや負担、医療・補装具などの制度の理解を深める。					
7	学習の振り返り、問題演習					これまでの学習内容の振り返りや問題演習を行い学習内容の習熟を深める。					
8	筆記テスト(記述)					課題に対する記述筆記試験により、学習到達度を確認し効果判定を行う。					
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は記述による筆記試験で行う。筆記試験は100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。講義やグループワークには能動的に参加をすること。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名						岩本 大志			
総合演習Ⅰ（評価）		必修・ 選択	必修	授業 形態	講義 実技・実習	時間数 （単位）	30 （1）	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記									
過去に学んだ内容を振り返り実技および演習を通し、OSCEや国家試験に対応出来るようになる。									
〔到達目標〕									
過去に学んだ内容を振り返り実技および演習を通し、OSCEや国家試験に対応出来るようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
MMT教科書・評価学教科書									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	バイタル測定（2点）			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
2	形態測定（2点）			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
3	ROM(2点)			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
4	MMT 頸部・体幹 実技室 小テストあり（2点）			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
5	MMT 上肢 実技室 小テストあり(2点)			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
6	MMT 下肢 実技室 小テストあり(2点)			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
7	日常生活活動評価(2点)			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
8	中間テスト(30点)			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	片麻痺評価・試験問題 実技室（2点）			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
10	深部腱反射・病的反射・筋トーヌス 実技室（2点）			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
11	脳神経検査 教室（2点）			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
12	姿勢バランス検査(2点)			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
13	協調性検査 実技室（2点）			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
14	高次脳機能検査 教室（2点）			検査上の注意点を理解して実際測定できる					
15	期末テスト（44点） 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は実技の確認および、teamsで試験で行う。 筆記試験は小テストと中間テスト(30点)・期末テスト(44点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 授業内ルール 提出物および小テストの期限は厳守すること。休んだ際は小テスト受験出来ない。1回の授業を大切にするため。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
総合演習Ⅰ(運動学)											
〔授業の学習内容と心構え〕											
・国家試験対策として、共通問題”運動学”の問題解説を主体として行う。 ・一方的な講師からの説明(インプット)で終わる学習とせず、生徒自らが説明する(アウトプット)機会を設けることで、理解を深める学習の場とする。											
〔到達目標〕											
・骨、関節、筋、上肢、下肢、体幹、顔面の運動学、姿勢、運動学習、を範囲とした国家試験問題の理解を目標とする。 ・国家試験問題を多数解くことで、問題傾向を読み取る。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
過去の国家試験問題 Teamsで提示する配布資料						毎回の小テストを振り返りとして実施をする。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	骨					骨の国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
2	関節					関節の国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
3	筋					筋の国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
4	肩甲骨および肩関節の運動学					肩甲骨および肩関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
5	肘関節の運動学					肘関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
6	手関節の運動学					手関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
7	中間試験					第1～6回の内容を、筆記試験により効果判定を行い、理解度を深める。					
8	股関節の運動学					股関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
9	膝関節の運動学					膝関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
10	足関節の運動学					足関節の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
11	頸部・体幹の運動学					頸部・体幹の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
12	顔面筋・体表解剖の運動学					顔面筋・体表解剖の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
13	姿勢の運動学					姿勢の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
14	運動学習の運動学					運動学習の運動学の 国家試験問題の傾向と解説を理解する。					
15	期末試験					第8～14回の内容を、筆記試験により効果判定を行い、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
・中間試験(計40点)、期末試験(計40点)、 毎回の小テスト(計20点)の3合計100点で評価する。 ・評価方式は筆記試験とする。											

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義	水梨	将宏	
総合演習Ⅰ（日常生活動作学）								時間数（単位）	30（2）	授業回数
										15
〔授業の学習内容と心構え〕										
・回復期リハビリ病院にて、在宅復帰に向けたADLの向上に取り組む理学療法士として日々従事している。										
・今まで学んできた運動学や日常生活動作学の知識を発展させ、実際の日常生活動作の問題を評価・治療につなげられることを目標とする。										
・実技と他者への説明に時間を多く割くことで、学んだ知識の理解と整理に努めてもらう取り組みを重視する。										
〔到達目標〕										
・動作観察および動作分析の説明および解釈が行えることを目標とする。										
・疾患別における日常生活動作の問題について、理解・説明できることを目標とする。										
・日常生活動作における理学療法評価の習得を目標とする。										
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕					
日常生活動作学の教科書					小テストを授業終了後に各自で振り返りとして実施をする。					
Teamsで提示する配布資料										
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	ADLの概念					ADLの概念、ICIDHとICF、QOLの用語の説明ができる。				
2	ADLの運動学的分析 ①					静力学、運動力学の用語が説明ができる。				
3	ADLの運動学的分析 ②					運動力学的分析について説明ができる。				
4	基本動作の運動学的分析(寝返り)					寝返りの運動学的分析が説明できる。				
5	基本動作の運動学的分析(起き上がり)					起き上がりの運動学的分析が説明できる。				
6	基本動作の運動学的分析(立ち上がり)					立ち上がりの運動学的分析が説明できる。				
7	中間試験					第1～6回の内容を、筆記試験により効果判定を行い、理解度を深める。				
8	ADLを支援する機器(歩行補助具)					各歩行補助具の特徴について説明ができる。				
9	ADLを支援する機器(歩行補助具)②					各歩行補助具を用いた介助ができる。				
10	筋骨格系障害に対するADL能力低下					筋骨格系障害に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。				
11	関節リウマチに対するADL能力低下					関節リウマチに対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。				
12	股関節術後に対するADL能力低下					股関節術後に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。				
13	膝関節術後に対するADL能力低下					膝関節術後に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。				
14	股関節・膝関節の術後の歩行能力低下					股関節・膝関節術後の歩行能力低下の要因とその対策について説明ができる。				
15	期末試験					第8～14回の内容を、筆記試験により効果判定を行い、理解度を深める。				
〔評価について〕						〔特記事項〕				
・中間試験(計40点)、期末試験(計40点)、毎回の小テスト(計20点)の3合計100点で評価する。										
・評価方式は筆記試験とする。										

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								千羽 純子			
運動療法Ⅱ(スポーツ障害外傷)				必修・ 選択	必修	授業 形態	講義 実技	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
臨床解剖学分野での学識豊富な医師による講義で、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち神経系の形態的特色と働き、並びに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する。											
〔到達目標〕											
スポーツ(アスリートが抱える)障害・外傷の発生機序を学び医療的知見から評価・アプローチ方法を理解できる											
〔使用教材、参考文献等〕 配布資料						〔準備学習・時間外学習〕 基本的な解剖学、運動学、生理学の知識の復習					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	スポーツ障害外傷、一次救命とファーストエイド(FA)					障害・外傷の概念を理解できる 一次救命、FAについて理解・実践できるようになる					
	スポーツにおける肩関節の障害・外傷 評価・処置法 小テスト1 (1回目の内容)					スポーツにおける肩の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
3	スポーツにおける肘関節の障害・外傷 評価・処置法 小テスト2 (2回目の内容)					スポーツにおける肘の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
4	スポーツにおける手指の障害・外傷 評価・処置法 小テスト (3回目の内容)					スポーツにおける手指の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
	スポーツにおける脊柱の障害・外傷 評価・処置法① 小テスト3 (4回目の内容)					スポーツにおける脊柱の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
	スポーツにおける脊柱の障害・外傷 評価・処置法② 小テスト4 (5回目の内容)					スポーツにおける脊柱の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
7	中間テスト					テストにより効果判定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
	テスト下解説 スポーツにおける股関節の障害・外傷 評価・処置法① 小テスト5 (6回目の内容)					スポーツにおける股関節の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
9	スポーツにおける股関節の障害・外傷 評価・処置法② 小テスト6 (8回目の内容)					スポーツにおける股関節の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
	スポーツにおける膝関節の障害・外傷 評価・処置法① 小テスト7 (9回目の内容)					スポーツにおける膝関節の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
11	スポーツにおける膝関節の障害・外傷 評価・処置法② 小テスト8 (10回目の内容)					スポーツにおける膝関節の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
12	スポーツにおける足関節・足部の障害・外傷 評価・処置法① 小テスト9 (11回目の内容)					スポーツにおける足関節・足部の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
	スポーツにおける足関節・足部の障害・外傷 評価・処置法② 小テスト10 (12回目の内容)					スポーツにおける足関節・足部の障害・外傷 評価・処置法を理解・実践できる					
14	期末テスト					テストにより効果判定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
15	テスト解説、総復習										
〔評価について〕 評価は筆記試験にて行う 中間(30点)、期末(30点) + 小テスト(40点) の計100点満点で評価する。 評価は学則基準に準ずる。						〔特記事項〕 実技もあるため、ハーフパンツやTシャツなど動きやすい服装で出席すること スケジュールは変更の場合あり					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								渡邊 なこと			
運動療法学Ⅱ				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
臨床解剖学分野での学識豊富な医師による講義で、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち神経系の形態的特色と働き、並びに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する。											
〔到達目標〕											
・疾病や障がいを抱える子どもに関わる諸問題に関心を持ち、小児理学療法の役割を認識する。 ・疾病や障がいを抱える子どもと家族に対して適切な理学療法が行えるよう、小児理学療法の特性、技術、小児期の代表的な疾患や障がいについて学び、基本的な知識および技能を習得する。											
〔使用教材、参考文献等〕 配布資料、教科書、動画						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	■オリエンテーション ■正常運動発達①					■各肢位の胎児期・新生児期から1歳児(歩行獲得までの正常運動発達を理解する。					
	■正常運動発達②					■各肢位の胎児期・新生児期から1歳児(歩行獲得までの正常運動発達を理解する。 ■評価尺度について理解する。					
3	■発達・運動発達の評価					■正常運動発達を身体を動かしながら理解する					
4	■正常姿勢反射の発達 ■小テスト(範囲:1～3回目の授業内容)					■運動発達の理論的背景を理解する。 ■原始反射・姿勢反射について理解する。					
	■脳性麻痺の概論 ■小テスト(範囲:4回目の授業内容)					■脳性麻痺の特性を理解する。					
6	■異常姿勢反射の発達					■姿勢制御機構の発達と運動機能について理解する。					
7	■痙直型脳性麻痺の概要と理学療法 ■小テスト(範囲:5～6回目の授業内容)					■痙直型麻痺の理学療法の特性を理解する。					
8	■痙直型脳性麻痺の概要と理学療法					■痙直型麻痺の理学療法の特性を理解する。					
9	■アトーゼ型脳性麻痺の概要と理学療法 ■脳性麻痺の評価と理学療法					■アトーゼ型脳性麻痺の障がいの特徴を理解する。 ■脳性麻痺の評価と理学療法について理解する。					
	■脳性麻痺のまとめ(症例検討) ■小テスト(範囲:7～9回目の授業内容)					■脳性麻痺の理解を深める。					
11	■子どもの遺伝性疾患の概要と理学療法					■筋ジストロフィー症の障がいの特徴を理解する。					
12	■子どもの整形外科疾患					■二分脊椎およびペルテス病の障がいの特性を理解する。					
	■子どもの発達障がい					■発達障がいの特性を理解する。					
14	■知的障がい児・胎児期の発達 ■小テスト(範囲:11～14回目の授業内容)					■知的障がい・ダウン症の障がいの特性を理解する。					
15	■期末テスト					■1～14回までの授業の理解を深める。					
〔評価について〕 小テスト:10点×5回＝50点 期末テスト:50点 ※59点以下を不合格とする						〔特記事項〕 講義では、疾患の特性をよりイメージしやすいよう、写真・動画を用いながら解説していく。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法学科Ⅰ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								室井 大佑			
疾患別理学療法学実習Ⅱ（中枢）				必修/選択	必修	授業形態	講義実技	時間数（単位）	30（1）	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
脳血管障害に対する基本的な理学療法の進め方（一般的評価、理学療法の目的ならびに具体的方法、リスク管理）について学修する。専門科目である解剖学・生理学の神経系の構造と機能等を復習しておくこと。											
〔到達目標〕											
脳血管障害の病態・評価・リハビリテーションの実際について学ぶ 脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な運動療法を習得する											
〔使用教材、参考文献等〕 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ					〔準備学習・時間外学習〕 準備学習1時間（シラバスに従ってテキストを読んでおく） 時間外学習1時間（ノートまとめ）						
回	〔授業概要〕					到達目標（できるようになること）					
1	中枢系理学療法の基礎的知識					中枢系理学療法の基礎的知識を理解できる					
2	脳損傷の定義および病態					脳損傷の定義および病態を理解できる					
3	運動・感覚の中枢機能と構造（小テスト）					運動・感覚の中枢機能と構造を理解できる					
4	脳損傷とその回復過程					脳損傷とその回復過程を理解できる					
5	脳血管障害における医学的管理					脳血管障害における医学的管理を理解できる					
6	脳卒中に対するリハビリテーションの流れ、片麻痺患者の運動障害の特徴（小テスト）					脳卒中に対するリハビリテーションの流れと片麻痺患者の運動障害の特徴を理解できる					
7	片麻痺に対する評価方法(1) impairment					片麻痺に対する評価方法を理解できる					
8	片麻痺に対する評価方法(2) activity limitation（小テスト）					片麻痺に対する評価方法を理解できる					
9	片麻痺に対する評価方法（実習）					片麻痺に対する評価方法を身に付ける					
10	片麻痺患者に対する運動療法(1)課題指向型					片麻痺患者に対する運動療法(1)課題指向型を理解できる					
11	片麻痺患者に対する運動療法(2)座位・立位（実習）					片麻痺患者に対する運動療法(2)座位・立位を理解できる					
12	片麻痺患者に対する運動療法(3)歩行（小テスト）					片麻痺患者に対する運動療法(3)歩行を理解できる					
13	第1-12回まとめ					第1-12回まとめ					
14	期末テスト					期末テスト					
15	テスト返却及びテスト振り返り、神経系リハビリテーション最前線					テスト返却及びテスト振り返り、神経系リハビリテーションの最前線を知る					
〔評価について〕 合格基準は学校基準に準ずる 小テスト40点/期末テスト60点					〔特記事項〕						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員 内堀 昭宜 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数	15
理学療法検査・測定法実習Ⅱ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士として大学院で運動機能系修士を学び、臨床現場で10年以上に亘る経験と実習指導にも長けている理学療法士が、査測定法で学習した疾患別検査や、関節可動域測定、徒手筋力検査法について演習を行い、その技術を確実に実施できる能力を習得する。また、各検査結果について考察し、検査・測定結果の持つ意味を検証する。同時に、対象者への接し方、触れ方、理学療法士としての身体の使い方についても学習する。更にはOSCEへの繋ぐことでマインド面の向上も図っていく。											
〔到達目標〕											
理学療法評価における代表的な検査・測定法を習得する総論と一般評価事項、形態測定、関節可動域測定方法が理解できるようにする。更に習得した検査・測定法が有効かつ効果的に選択できる思考力を学び実践できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 「理学療法評価学 改訂第4版」(金原出版株式会社) 適宜、プリント配布						〔準備学習・時間外学習〕 初めて行なう技術であるため、授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1・2	【オリエンテーション】 前期までの進行状況の確認、					前期に学んだ検査・測定実習での内容を確認して、後期における本授業の意義を理解できる。					
3・4	分析(統合)と考察(解釈)を再確認する。					検査・測定から評価への流れの中で分析と考察を再確認できる。					
5・6	分析(統合)と考察(解釈)を実践する。①(疾患別)					検査・測定から動作を分析し考察を立てる事ができる。					
7・8	分析(統合)と考察(解釈)を実践する。①(疾患別)					検査・測定から動作を分析し考察を立てる事ができる。					
9・10	障害分類について(ICIDH・ICF)					ICIDH・ICFそれぞれの成り立ちと分類が理解できる。					
11・12	分析(統合)と考察(解釈)をサマリーにする①(疾患別)					疾患に対する初期評価の書き方をサマリーにする事ができる。					
13・14	分析(統合)と考察(解釈)をサマリーにする①(疾患別)					疾患に対する初期評価の書き方をサマリーにする事ができる。					
15・16	中間確認試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
17・18	脳卒中片麻痺他(症例検討)グループワーク					脳卒中片麻痺他疾患における症例の検査・測定法と初期評価をプレゼンできる。					
19・20	脊髄損傷他(症例検討)グループワーク					脊髄損傷他疾患における症例の検査・測定法と初期評価をプレゼンできる。					
21・22	変形性股関節症他(症例検討)グループワーク					変形性股関節症他疾患における症例の検査・測定法と初期評価をプレゼンできる。					
23・24	大腿骨頸部骨折他(症例検討)グループワーク					大腿骨頸部骨折他疾患における症例の検査・測定法と初期評価をプレゼンできる。					
25・26	関節リウマチ他(症例検討)グループワーク					関節リウマチ他疾患における症例の検査・測定法と初期評価をプレゼンできる。					
27・28	虚血性心疾患他(症例検討)グループワーク					虚血性心疾患他疾患における症例の検査・測定法と初期評価をプレゼンできる。					
29・30	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員 山本 敏之 先生			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	120 (8)	授業回数	60
総合演習Ⅰ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士として臨床でリハビリ場面を経験し、解剖知識の重要性に触れた教員が、医療の基礎となる解剖学を国家試験の準備も踏まえ試験に対応できる能力を習得する授業を行なう。 医学の基礎であり、他職種との医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。 座学での授業であるため、しっかり復習して授業、小テストに臨んでほしい。											
〔到達目標〕 医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。 国家試験の準備として、試験本番に対応できる能力を習得する。											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学「解剖学」(医学書院) 基礎運動学 医歯薬出版 クエスチョン・バンク2019共通問題(メディックメディア)						〔準備学習・時間外学習〕 毎時間行った問題を復習し理解を深め、小テストに挑むことが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1・2 3・4	オリエンテーション 国家試験の概要について					国家試験での解剖分野がどのぐらいの配分で関与しているか理解していく。					
5・6 7・8	骨・関節 問題演習と解説					身体の骨格、関節に関して名称や関節運動の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
9・10 11・12	股関節 問題演習と解説 【小テスト】					股関節の骨格、関節、筋組織に関して名称や運動の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
13・14 15・16	膝関節 問題演習と解説 【小テスト】					膝関節の骨格、関節、筋組織に関して名称や運動の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
17・18 19・20	足関節 問題演習と解説 【小テスト】					足関節の骨格、関節、筋組織に関して名称や運動の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
21・22 23・24	顔・体幹 問題演習と解説 【小テスト】					顔・体幹の骨格、関節、筋組織に関して名称や運動の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
25・26 27・28	姿勢・動作 問題演習と解説 【小テスト】					姿勢や動作に関して名称や姿勢・動作内容の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
29・30 31・32	【中間確認テスト】(筆記)					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
33・34 35・36	【中間確認テスト】 解説 歩行 問題演習と解説					テストの解説を行い、内容の理解を深める。歩行に関して名称や運動内容を理解し、国家試験問題を解ける。					
37・38 39・40	肩関節 問題演習と解説 【小テスト】					肩関節の骨格、関節、筋組織に関して名称や運動の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
41・42 43・44	肘関節 問題演習と解説 【小テスト】					肘関節の骨格、関節、筋組織に関して名称や運動の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
45・46 47・48	手関節 問題演習と解説 【小テスト】					手関節の骨格、関節、筋組織に関して名称や運動の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
49・50 51・52	中枢神経 問題演習と解説 【小テスト】					中枢神経に関して名称や機能の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
53・54 55・56	末梢神経 問題演習と解説 【小テスト】					末梢神経に関して名称や機能の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
57・58 59・60	内臓 問題演習と解説 【小テスト】					内臓に関して名称や機能の理解を深め、その内容の国家試験問題を解ける。					
〔評価について〕 小テスト(60%以上・計10回実施予定) 定期試験(60%以上・期末) ともに筆記試験を行い、評価は学則基準に準ずる。						〔特記事項〕 毎回、国家試験の過去問を配布し、問題演習をグループワークにて行う。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員 渡邊 健二 先生		
授業科目名 老年学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療やリハビリテーション実施上の問題点、また障害高齢者を受け入れる療養上の問題点について理解を図る。								
〔到達目標〕 心身の健康から見た高齢者の特徴、加齢的变化の本質を理解できる。 高齢者が罹患しやすい疾患が修得できるようになる。								
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 老年学			〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 老年学とは		老年学の概念を理解し、説明が出来るようになる					
2	老化と加齢変化① —老化の機序、加齢に伴う生理機能の変化		加齢と老化の違いを理解し、説明できるようになる					
3	老化と加齢変化② —生理機能の変化、感覚・自立・高次脳機能の加齢変化		生理機能の変化、感覚・自立・高次脳機能の加齢変化が理解できる。					
4	老化と加齢変化② —運動機能、精神心理面の加齢変化		運動機能、精神心理面の加齢変化を理解できる					
5	高齢者の機能評価① —総合的機能評価、日常生活活動の評価や測定方法		日常生活活動(ADLなど)の評価や測定方法を理解できる。					
6	高齢者の機能評価② —障害老人の日常生活自立度の評価		日常生活活動(ADLなど)の評価や測定方法を理解できる。					
7	高齢者の機能評価③ —知的機能の評価		知的機能の評価を理解できる。 高齢者の機能評価についての内容を説明できる					
8	中間試験		第1～7講義の内容を理解し、説明ができる					
9	老年症候群 —老年症候群の概念、各症状の理解		老年症候群の概念、各種障害を理解できる。					
10	循環器疾患—高血圧症、低血圧症、不整脈、AED、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)心臓弁膜症、うっ血性心不全、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症		循環器疾患における病態を理解できる。					
11	呼吸器疾患 —高齢者肺炎、誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患		呼吸器疾患における病態を理解できる。					
12	精神神経疾患—各認知症について 泌尿器疾患—腎不全、膀胱炎、前立腺肥大、前立腺癌		精神神経および泌尿器疾患における病態を理解できる。					
13	骨関節疾患と加齢変化		骨関節疾患における病態を理解できる。					
14	脳血管疾患と加齢変化		脳血管疾患における病態を理解できる。					
15	期末試験		第1～14講義の内容を理解し、説明ができる					
〔評価について〕 中間試験30% 期末試験30% 小テスト40%で59%以下を不合格とする。 ※小テスト:各講義内で実施。講義内容を復習する内容			〔特記事項〕 講義では、老年学をよりよく理解できるように、重要なポイントについてのみ解説する。学生は自主的に教科書を読み、人体の加齢変化についての理解を深めなければならない。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース:理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員 内堀 昭宜 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
疾患別理学療法学Ⅱ(呼吸)									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 現場経験豊富な理学療法士科が、呼吸器に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、呼吸機能の評価、問題点抽出、治療到達目標設定と運動療法のプログラム作成、リスク管理などについて講義および実習を行う。									
〔到達目標〕 呼吸器系に関連する領域の基礎知識を広く理解し、それぞれの疾患に対応した理学療法の評価と治療法の基本を身につけることである。									
〔使用教材、参考文献等〕 ●「動画でわかる呼吸リハビリテーション第4版」(中山書店)				〔準備学習・時間外学習〕 ＜準備・内容＞キーワードの事前調査 ＜準備・実技＞方法の確認と身体の使い方のイメージ					
回	〔授業概要〕 到達目標(できるようになること)								
1	【総論】呼吸リハビリテーション、呼吸理学療法				①呼吸リハビリテーション・理学療法の概要 ②呼吸リハビリテーションの有用性・リスクを説明できる				
2	【復習・確認①】呼吸器に関わる基礎知識(解剖・運動・生理)				呼吸器の構造を理解し、酸素運搬過程での呼吸・循環の関係を説明できる				
3	【復習・確認②】呼吸器に関わる基礎知識(解剖・運動・生理)				呼吸調整のメカニズム、呼吸運動に伴う胸郭運動を説明できる				
4	【病態と疾患】 呼吸不全／閉塞性換気障害、拘束性換気障害				各病態の違いおよび症状を説明できる				
5	【検査・測定①】フィジカルアセスメント ＜視診・触診・打診・聴診＞				フィジカルアセスメントの重要性を理解し、各項目が読める				
6	【検査・測定②】呼吸機能、血ガス分析				①呼吸機能の検査方法および結果の解釈 ②動脈血液ガスの指標と正常値が説明できる				
7	【検査・測定③】画像所見、呼吸困難感、運動耐容能、他				呼吸に関連する各種検査方法、結果の解釈が説明／実施できる				
8	★確認試験★(45分)【呼吸PT】 コンディショニング①～ポジショニング～				姿勢が呼吸に与える影響を説明できる				
9	☆返却と解説☆【呼吸PT】コンディショニング② ～リラクゼーション、呼吸練習、胸郭可動域運動～				コンディショニングの重要性を理解し、各方法を実践できる				
10	【呼吸PT】呼吸介助法、排痰法、運動療法				効果的な呼吸介助法や排痰法を指導・実践できる。 運動療法の目的や効果が説明でき、指導できる。				
11	【日常生活動作①】日常生活動作の評価と指導				①ADLの評価方法を説明できる ②ADL動作の原則・導点を説明できる				
12	【日常生活動作②】日常生活動作の工夫を考える				各ADL動作の安全な方法を説明できる				
13	【呼吸リハビリテーション介入方法】 酸素療法／人工呼吸療法／栄養療法／薬物療法				各介入方法の効果や目的、リスク管理をできる				
14	★期末試験★(60分)				試験を通して自分の知識の深さを理解する				
15	☆返却と解説☆case study ～対応方法を考える～				case studyを通じて、症状の対処方法を実践できる				
〔評価について〕 ●確認試験 ●期末試験				〔特記事項〕 実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合がある					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員 桜井 徹也 先生			
授業科目名				必修/ 選択	必須	授業形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
運動療法学実習Ⅱ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
臨床経験豊富な講師から筋や疼痛に対する徒手的治疗技術を学び、基本的な考え方と治療手技を習得する。部位別に治療の実際を紹介する。疼痛を緩和する徒手療法は、近年めざましい研究がなされリハビリテーションの分野では既に不可欠のものとなり、確固たる地位を築きつつあるのが現状である。実技に積極的に参加する姿勢が求められる。											
〔到達目標〕											
・筋を触察し、特定できる。 ・痛み、可動域の改善、筋力の向上を確認することができる。 ・疼痛抑制の基本的技術が実施できる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
・骨格筋の形と触察法(大峰閣) ・随時プリント配布						徒手療法を理解、実施するために、前学年で学習したの筋の基礎知識が必要となる。技術習得のため、筋の触察を中心に復習することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 徒手療法の紹介 神経生理学的現象による痛みの抑制機序					徒手療法で用いる用語について説明することができる。 痛みの抑制機序について分類することができる。					
2	疼痛抑制手技の基本①					基本手技の手順を説明することができる。疼痛部位を確認し原因筋(線維)を推測することができる。					
3	疼痛抑制手技の基本②					筋連結、拮抗筋、デルマトームを考慮し、抑制部位を選択できる。痛みの変化を確認することができる。					
4	疼痛抑制手技の復習 上肢に対する評価および筋触察					基本手技が実施できる。 上肢の骨、筋のチェック事項を述べることができる。					
5	上肢に対する筋触察と徒手的アプローチ①					上肢の筋を触察し、特定することができる。 上肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。					
6	上肢に対する筋触察と徒手的アプローチ②					上肢の筋を触察し、特定することができる。 上肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。					
7	上肢に対する筋触察と徒手的アプローチ③					上肢の筋を触察し、特定することができる。 上肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。					
8	中間確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	下肢に対する評価および筋触察					下肢の骨、筋のチェック事項を述べることができる。					
10	下肢に対する筋触察と徒手的アプローチ①					下肢の筋を触察し、特定することができる。 下肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。					
11	下肢に対する筋触察と徒手的アプローチ② 体幹に対する評価および筋触察					下肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。 体幹の骨、筋のチェック事項を述べることができる。					
12	体幹に対する筋触察と徒手的アプローチ①					体幹の筋を触察し、特定することができる。 下肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。					
13	体幹に対する筋触察と徒手的アプローチ②					体幹の筋を触察し、特定することができる。 下肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。					
14	片麻痺に対する評価と徒手的アプローチ①					スムーズな運動の条件を説明することができる。 片麻痺に対する徒手療法の目的を述べることができる。					
15	片麻痺に対する評価と徒手的アプローチ② 総括					下肢に対する徒手的アプローチを実施することができる。 習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						授業では、体にマーキングを行う。触察を行いやすい服装で参加すること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法学科Ⅰ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員 室井 大佑 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
疾患別理学療法実習Ⅱ(中枢)											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
脳血管障害に対する基本的な理学療法の進め方(一般的評価、理学療法の目的ならびに具体的方法、リスク管理)について学修する。専門科目である解剖学・生理学の神経系の構造と機能等を復習しておくこと。											
〔到達目標〕											
脳血管障害の病態・評価・リハビリテーションの実際について学ぶ 脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な運動療法を習得する											
〔使用教材、参考文献等〕 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法Ⅰ						〔準備学習・時間外学習〕 準備学習1時間(シラバスに従ってテキストを読んでおく) 時間外学習1時間(ノートまとめ)					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1・2	中枢系理学療法の基礎的知識					中枢系理学療法の基礎的知識を理解できる					
3・4	運動・感覚の中枢機能と構造					運動・感覚の中枢機能と構造を理解できる					
5・6	脳損傷の定義および病態				小テスト	脳損傷の定義および病態を理解できる					
7・8	脳損傷とその回復過程					脳損傷とその回復過程を理解できる					
9・10	脳血管障害における医学的管理					脳血管障害における医学的管理を理解できる					
11・12	脳卒中に対するリハビリテーションの流れ、片麻痺患者の運動障害の特徴				小テスト	脳卒中に対するリハビリテーションの流れと片麻痺患者の運動障害の特徴を理解できる					
13・14	片麻痺に対する評価方法(1) impairment					片麻痺に対する評価方法を理解できる					
15・16	片麻痺に対する評価方法(2) activity limitation					片麻痺に対する評価方法を理解できる					
17・18	片麻痺に対する評価方法:実習				小テスト	片麻痺に対する評価方法を身に付ける					
19・20	片麻痺患者に対する運動療法(1)課題指向型					片麻痺患者に対する運動療法(1)課題指向型を理解できる					
21・22	片麻痺患者に対する運動療法(2)座位・立位					片麻痺患者に対する運動療法(2)座位・立位を理解できる					
23・24	片麻痺患者に対する運動療法(3)歩行				小テスト	片麻痺患者に対する運動療法(3)歩行を理解できる					
25・26	片麻痺患者に対する予後予測					片麻痺患者に対する予後予測を理解できる					
27・28	期末テスト					期末テスト					
29・30	テスト返却及びテスト振り返り、神経系リハビリテーション最前線					テスト返却及びテスト振り返り、神経系リハビリテーションの最前線を知る					
〔評価について〕 合格基準は学校基準に準ずる 小テスト40点/期末テスト60点						〔特記事項〕					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								戸倉翔 先生			
実習教育Ⅲ				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士として臨床で現場でリハビリテーションに貢献している教員が、実習をスムーズに遂行できるよう実習前後における姿勢と心構えを身につける授業を行なう。また、実践的な臨床実習場面を想定した、実技を中心に演習し評価実習および総合臨床実習に必要な基本的な知識、技能、態度を養う授業を行なう。臨床の現場で患者を配慮した安全で効率的な検査測定が重要となることを意識しながら受講してほしい。講義と演習の授業となるため遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
①対象者に必要な検査測定を選択することができる。②選択した検査測定を正確かつ安全に実施できる。③患者の状態に応じた適切な介助を行うことができる。④検査結果の解釈を説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
理学療法評価学 改訂第4版 臨床実習フィールドガイド (南江堂)						検査測定の目的、方法、動作介助方法を再度確認してくること。授業後は、復習をし確実に身に付けることが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	授業のオリエンテーション 問題点の抽出と評価の統合の進め方					専門職に必要な資質、態度について理解することができる					
2	問題点の抽出と評価の統合 中枢疾患 グループワーク					中枢疾患における問題点を洗い出せる (チームで行うこと)					
3	問題点の抽出と評価の統合 中枢疾患 グループワーク プレゼンテーション ディスカッション					中枢疾患における問題点を検証できる (チームで行うこと)					
4	問題点の抽出と評価の統合 整形疾患 グループワーク					整形疾患における問題点を洗い出せる (チームで行うこと)					
5	問題点の抽出と評価の統合 整形疾患 グループワーク プレゼンテーション ディスカッション					整形疾患における問題点を検証できる (チームで行うこと)					
6	問題点の抽出と評価の統合 内部疾患 * 中間確認テスト症例提示					中枢疾患における問題点を統合できる (チームで行うこと)					
7	問題点の抽出と評価の統合 整形疾患 * 中間確認テスト症例提示					整形疾患における問題点を統合できる (チームで行うこと)					
8	中間確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
9	診療録記載の考え方1 SOAPについて					SOAPの内容を理解できる					
10	診療録記載の考え方2 SOAPの実践					SOAPの内容を活用できる					
11	統合と解釈の進め方1 ボトムダウン、評価の意義					統合と解釈が理解できる					
12	統合と解釈の進め方2 評価の意義と動作の関連性					統合と解釈を学んで理学療法評価につなげることが出来る					
13	統合と解釈の進め方3 症例検討 個人ワーク					SOAPを使って症例検討につなげることが出来る					
14	統合と解釈の進め方4 症例検討 グループディスカッション					SOAPを使って症例検討につなげることが出来る					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 事前に提示された課題について、調べキーワード説明できる用を準備する。授業内だけでなく学生同士で実技練習を行い、技術向上に努めること。 疑問点は担当教員にアドバイスをもらうこと。					